

企業分析レポート

株式会社サイゼリヤとロイヤルホールディングス株式会社の企業比較

株式会社サイゼリヤ

(SAIZERIYA Co.,Ltd.)

東京証券取引所 市場第一部 [7581]

会計基準：日本基準

決算日：8月31日（年1回）

分析期間・分析年度

5年間

2015年度（2014年9月1日～2015年8月31日）－ 2019年度（2018年9月1日～2019年8月31日）

（企業間比較の都合上、2015年8月期を2015年度という形（以降の年度同じ）で表記する。）

ロイヤルホールディングス株式会社

(ROYAL HOLDINGS Co.,Ltd)

東京証券取引所 市場第一部 [8179]

会計基準：日本基準

決算日：12月31日（年1回）

分析期間・分析年度

5年間

2015年度（2015年1月1日～2015年12月31日）－ 2019年度（2019年1月1日～2019年12月31日）

経済学部 総合経済政策学科 3年

1811550000

分析グレード グレード3

株式会社サイゼリヤ

株式会社サイゼリヤ（以下サイゼリヤ）は、当社及び連結子会社 8 社により構成されており、イタリア料理店「サイゼリヤ」をチェーン展開するフードサービス事業である。「日々の価値ある食事の提案と挑戦」を経営理念として掲げ、日常の暮らしの中で繰り返し来店されるような「リーズナブルな価格」と、お客様が喜ぶ「おいしさ」を維持・提供してきた。その低価格を維持するために、サイゼリヤは企業自らが「商品開発」「食材の生産」「加工」「配送」までを一貫して行う、「製造直販業（＝SPA）」という事業形態をとっており、品質と価格を自分たちでコントロールできることから、「リーズナブルな価格」と「こだわった食材によるおいしさ」を同時に実現することが可能となっている。

当社は 2000 年、プロシュート（生ハム）を初めて販売し、当時日本での知名度が皆無であったことから、「価格が高いと誰も注文してくれないだろう」と本場イタリアよりもリーズナブルな「390 円（2 枚入り）」という破格の価格で売り出した。当時こそ売り上げは伸びなかったが、今ではサイゼリヤの名物メニューとなっている。また、サイゼリヤ一番の人気を誇る「ミラノ風ドリア」は「300 円（6 月 23 日時点で 299 円から 1 円値上げ）」とその低価格は当初より変わらず、当社の売り上げに貢献している。

店舗数については、1,504 店舗（国内 1,093 店 海外 411 店/2019 年 8 月期・連結）を運営しており、海外事業のビジネスモデル確立・国内事業の第 2 の柱となる新事業開発のための方針を示している。また、国内レストラン事業の利益体質強化・人的資産への投資を継続することを課題とし、「食堂業の産業化」推進のため、研究開発を導入している。

ロイヤルホールディングス株式会社

ロイヤルホールディングス株式会社（以下ロイヤルホスト）はレストラン「ロイヤルホスト」経営をはじめとし、ホテル事業や機内食事業、食品事業、コンストラクト事業などを手掛ける、フードサービス事業である。経営理念として「食品は美味しくなければならない」「調理・製造も取扱いも衛生的でなければならない」「サービス・販売は、お客様の心を楽しませ、社会を明るくするものでなければならない」ことを掲げ、質の高い「食」と「ホスピタリティ」企業として食文化を提供してきた。ロイヤルグループが 1971 年の一号店オープン以来変わることなく求めてきたテーマは「質の追求」であり、食の安全・安心はもちろん、食材の質にこだわり続けてきた。ロイヤルホストで使用する牛肉は、サーティファイド・アンガス・ビーフ・プログラムという米国農務省（USDA）が審査する厳しい品質基準が設定されたアンガス牛の認定制度で認められたビーフが使用されており、その厳選素材を利用したメニューはお客様に高く評価され、ファミリーレストランの中でも高品質として認められている。

店舗数については、総店舗数 841 店（外食事業 571 店舗、コンストラクト事業 225 店舗、ホテル事業 39 店舗、その他）（2018 年度末期時）を運営しており、当社及び関連会社 10 社で構成されている。

当社は 2010 年 9 月に 2020 年度を最終とした長期ビジョン「ロイヤルグループ経営ビジョン 2020」を策定しており、消費増税による消費低迷の懸念や少子高齢化の進行による外食マーケット規模の縮小を想定、同業者だけでなく他業者との競合の激化を見越した当社グループの生き残りを目指している。生産性の向上のため国内外での店舗展開、また、次の 10 年を見据えた企業価値の向上のため、従業員への健康投資や多様な働き方を取り入れ環境整備を整えることで持続的成長をはかっている。

ファミリーレストランチェーン業界売り上げトップ企業はすかいらーくホールディングスである。

設問② 要約連結財務諸表

株式会社サイゼリヤ

[単位：百万円]

連結貸借対照表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
	27 年 8 月期	28 年 8 月期	29 年 8 月期	30 年 8 月期	1 年 8 月期
資産合計	95,485	92,463	102,731	104,896	108,970
流動資産	39,920	40,367	49,454	49,989	56,015
当座資産	28,113	30,217	37,410	37,486	43,266
現金及び預金 ①	24,113	30,217	37,410	37,486	43,266
有価証券 ②	4,000	0	0	0	0
固定資産	55,565	52,096	53,277	54,358	52,955
有形固定資産	40,807	37,908	39,269	40,182	37,771
無形固定資産	992	1,022	834	750	685
のれん	0	0	0	0	0
投資その他の資産	13,765	13,164	13,173	13,974	14,498
資金性長期投資資産 ③	14,104	13,503	13,432	14,233	14,757
繰延資産	1,834	1,772	1,948	2,233	3,433
非事業余剰資金資産 ②+③	18,104	13,503	13,432	14,233	14,757
資金性資産合計 ①+②+③	42,217	43,720	50,842	51,719	58,023
負債合計	23,061	19,800	22,319	21,499	23,792
流動負債	18,100	15,393	16,534	14,688	16,296
短期有利子負債合計	8	8	9	9	9
固定負債	4,961	4,406	5,785	6,811	7,496
長期有利子負債合計	716	239	326	521	712
有利子負債合計	724	247	335	530	721
純有利子負債（ネット・デット）	-41,493	-43,473	-50,507	-51,189	-57,302
純資産合計	72,424	72,663	80,412	83,396	85,177
資本金	8,612	8,612	8,612	8,612	8,612
資本剰余金	9,209	9,215	10,556	10,631	10,663
利益剰余金	52,376	56,967	63,557	67,727	71,807
自己株式（減算）	-1,986	-3,243	-5,191	-6,020	-6,887
株主資本合計 ⑪	68,212	71,552	77,535	80,951	84,196
その他の包括利益累計額合計 ⑫	4,102	985	2,654	2,017	353
自己資本 = ⑪+⑫	72,314	72,537	80,189	82,968	84,549
新株予約権付社債	109	126	222	427	627
非支配株主持分	0	0	0	0	0
負債・純資産合計	95,485	92,463	102,731	104,896	108,970

連結貸借対照表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
	27 年 12 月期	28 年 12 月期	29 年 12 月期	30 年 12 月期	1 年 12 月期
資産合計	90,912	94,070	97,138	99,528	102,540
流動資産	17,429	17,889	20,669	18,983	18,322
当座資産	4,439	5,043	7,537	5,290	4,429
現金及び預金 ①	4,456	5,058	7,552	5,305	4,443
有価証券 ②	0	0	0	0	0
固定資産	73,483	76,180	76,468	80,544	84,218
有形固定資産	46,649	48,987	47,881	53,336	56,138
無形固定資産	619	703	729	791	711
のれん	0	0	0	136	0
投資その他の資産	26,213	26,489	27,857	26,416	27,368
資金性長期投資資産 ③	35,251	36,366	39,190	36,391	37,696
繰延資産	505	543	708	911	1,375
非事業余剰資金資産 ②+③	35,251	36,366	39,190	36,391	37,696
資金性資産合計 ①+②+③	39,707	41,424	46,742	41,696	42,139
負債合計	44,278	45,835	45,164	48,137	50,512
流動負債	17,254	16,933	17,485	17,742	17,091
短期有利子負債合計	2,833	2,485	3,400	3,678	3,260
固定負債	27,023	28,901	27,678	30,394	33,420
長期有利子負債合計	22,326	23,757	21,995	25,351	28,240
有利子負債合計	25,159	26,242	25,395	29,029	31,500
純有利子負債（ネット・デット）	-14,548	-15,182	-21,347	-12,667	-10,639
純資産合計	46,634	48,234	51,973	51,125	52,028
資本金	13,676	13,676	13,676	13,676	13,676
資本剰余金	23,499	23,042	23,042	21,866	21,866
利益剰余金	9,740	11,340	14,101	15,889	16,738
自己株式（減算）	-3,227	-3,357	-3,354	-3,872	-3,863
株主資本合計 ⑪	43,688	44,702	47,466	47,559	48,419
その他の包括利益累計額合計 ⑫	2,157	2,651	3,524	2,330	2,405
自己資本 = ⑪+⑫	45,845	47,353	50,990	49,889	50,824
新株予約権付社債	0	0	0	0	0
非支配株主持分	787	881	983	1,235	1,203
負債・純資産合計	90,912	94,070	97,138	99,528	102,540

株式会社サイゼリヤ

[単位：百万円]

連結損益及び包括利益計算書	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
	27 年 8 月期	28 年 8 月期	29 年 8 月期	30 年 8 月期	1 年 8 月期
売上高・営業収益	139,277	144,961	148,306	154,063	156,527
売上原価	52,058	53,398	52,528	56,268	56,277
売上総利益	87,219	91,563	95,777	97,795	100,250
販売費及び一般管理費	79,707	82,557	84,561	89,154	90,651
減価償却費/償却費合計	4,787	4,848	4,897	5,429	5,270
研究開発費	0	0	0	0	0
営業利益	7,511	9,006	11,216	8,640	9,599
営業外収益	511	340	737	329	344
営業外費用	18	212	68	74	212
利息費用合計 ①	9	5	2	2	4
経常利益 ②	8,004	9,134	11,885	8,895	9,731
E B I T ①+②	8,013	9,139	11,887	8,897	9,735
特別利益	181	177	120	76	16
特別損失	1,898	632	697	1,368	2,304
税金等調整前当期純利益	6,287	8,679	11,309	7,603	7,443
法人税等合計	2,513	3,173	3,813	2,529	2,462
当期純利益 ⑪	3,774	5,505	7,496	5,074	4,980
非支配株主に帰属する当期純利益	0	0	0	0	0
親会社株主に帰属する当期純利益	3,774	5,505	7,496	5,074	4,980
その他の包括利益 ⑫	568	-3,117	1,699	-636	-1,664
包括利益 ⑪+⑫	4,342	2,388	9,195	4,438	3,316
親会社株主に係る包括利益	4,356	2,388	9,165	4,437	3,316
非支配株主に係る包括利益	0	0	0	0	0

株式会社サイゼリヤ

[単位：百万円]

連結キャッシュ・フロー計算書	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
	27 年 8 月期	28 年 8 月期	29 年 8 月期	30 年 8 月期	1 年 8 月期
営業活動による C F ①	11,943	13,767	13,456	10,313	14,705
投資活動による C F ②	-2,915	-4,787	-5,149	-8,017	-6,016
設備投資額（有形）③	-4,732	-4,475	-5,174	-7,362	-5,449
設備投資額（有形＋無形）④	-5,386	-4,801	-5,262	-7,677	-5,602
フリー・キャッシュ・フロー ①＋②	9,028	8,980	8,307	2,296	8,689
フリー・キャッシュ・フロー ①＋③	7,211	9,292	8,282	2,951	9,256
フリー・キャッシュ・フロー ①＋④	6,557	8,966	8,194	2,636	9,103
財務活動による C F	840	-5,196	-2,114	-1,770	-1,853
現金及び現金同等物の換算差額	323	-1,679	1,000	-450	-1,132
現金及び現金同等物の純増加額	10,191	2,104	7,192	75	5,703
現金及び現金同等物の期首残高	17,921	28,113	30,217	37,410	37,486
現金及び現金同等物の期末残高	28,113	30,217	37,410	37,386	43,189

連結損益及び包括利益計算書	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
	27 年 12 月期	28 年 12 月期	29 年 12 月期	30 年 12 月期	1 年 12 月期
売上高・営業収益	127,159	129,732	132,070	133,896	136,546
売上原価	41,698	41,759	42,250	42,584	43,006
売上総利益	85,461	87,972	89,820	91,311	93,540
販売費及び一般管理費	83,729	86,042	87,360	89,407	92,922
減価償却費/償却費合計	4,472	4,961	4,797	5,071	5,839
研究開発費	0	0	0	0	0
営業利益	4,899	5,222	5,952	5,709	4,648
営業外収益	658	714	817	860	901
営業外費用	536	731	713	804	910
利息費用合計 ①	470	675	677	745	852
経常利益 ②	5,021	5,205	6,056	5,765	4,639
E B I T ①+②	5,491	5,880	6,733	6,510	5,491
特別利益	513	202	540	32	240
特別損失	634	965	921	936	993
税金等調整前当期純利益	4,900	4,443	5,675	4,860	3,887
法人税等合計	2,007	1,898	1,950	1,938	1,899
当期純利益 ⑪	2,893	2,544	3,724	2,922	1,987
非支配株主に帰属する当期純利益	164	166	191	130	63
親会社株主に帰属する当期純利益	2,728	2,377	3,533	2,791	1,923
その他の包括利益 ⑫	750	493	872	-1,198	76
包括利益 ⑪+⑫	3,643	3,037	4,596	1,724	2,063
親会社株主に係る包括利益	3,478	2,871	4,406	1,597	1,998
非支配株主に係る包括利益	164	166	191	126	65

ロイヤルホールディングス株式会社

[単位：百万円]

連結キャッシュ・フロー計算書	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
	27 年 12 月期	28 年 12 月期	29 年 12 月期	30 年 12 月期	1 年 12 月期
営業活動による C F ①	8,179	9,212	9,350	8,478	9,849
投資活動による C F ②	-5,081	-5,961	-4,279	-6,121	-5,941
設備投資額（有形）③	-5,792	-6,172	-5,230	-6,054	-5,359
設備投資額（有形＋無形）④	-5,792	-6,172	-5,230	-6,151	-5,359
フリー・キャッシュ・フロー ①＋②	3,098	3,251	5,071	2,357	3,908
フリー・キャッシュ・フロー ①＋③	2,387	3,040	4,120	2,424	4,490
フリー・キャッシュ・フロー ①＋④	2,387	3,040	4,120	2,327	4,490
財務活動による C F	-3,366	-2,650	-2,580	-4,591	-4,774
現金及び現金同等物の換算差額	0	0	0	-12	3
現金及び現金同等物の純増加額	-268	599	2,491	-2,246	-862
現金及び現金同等物の期首残高	4,736	4,467	5,067	7,558	5,311
現金及び現金同等物の期末残高	4,467	5,067	7,558	5,311	4,449

設問③ 財務分析表

株式会社サイゼリヤ

財務分析表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	5 年平均
	27 年 8 月期	28 年 8 月期	29 年 8 月期	30 年 8 月期	1 年 8 月期	
収益性分析						
R O E	5.22%	7.59%	9.35%	6.12%	5.89%	6.83%
売上高最終利益率	2.71%	3.80%	5.05%	3.29%	3.18%	3.61%
自己資本回転率	1.93 回	2.00 回	1.85 回	1.86 回	1.85 回	1.90 回
R O A [営業利益]	7.87%	9.74%	10.92%	8.24%	8.81%	9.11%
売上高営業利益率	5.39%	6.21%	7.56%	5.61%	6.13%	6.18%
総資本（総資産）回転率（回）	1.46 回	1.57 回	1.44 回	1.47 回	1.44 回	1.48 回
財務レバレッジ比率（倍）	1.32 倍	1.27 倍	1.28 倍	1.26 倍	1.29 倍	1.28 倍
R O A [経常利益]	8.38%	9.88%	11.57%	8.48%	8.93%	9.45%
R O A [当期純利益]	3.95%	5.95%	7.30%	4.84%	4.57%	5.32%
R O A [最終利益]	3.95%	5.95%	7.30%	4.84%	4.57%	5.32%
売上総利益率	62.62%	63.16%	64.58%	63.48%	64.05%	63.6%
売上原価率	37.38%	36.84%	35.42%	36.52%	35.95%	36.4%
売上高販管費比率	57.23%	56.95%	57.02%	57.87%	57.91%	57.4%
売上高総原価率	94.61%	93.79%	92.44%	94.39%	93.87%	93.8%
売上高経常利益率	5.75%	6.30%	8.01%	5.77%	6.22%	6.41%
売上高税引前利益率	4.51%	5.99%	7.63%	4.93%	4.76%	5.56%
売上高総費用比率	97.29%	96.20%	94.95%	96.71%	96.82%	96.4%
売上高減価償却費比率	3.44%	3.34%	3.30%	3.52%	3.37%	3.39%
売上高研究開発費比率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
売上高営業キャッシュ・フロー比率	8.57%	9.50%	9.07%	6.69%	9.39%	8.65%
売上高フリー・キャッシュ・フロー比率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
自己資本フリー・キャッシュ・フロー比率	12.48%	12.38%	10.36%	2.77%	10.28%	9.65%
総資本営業キャッシュ・フロー比率	12.51%	14.89%	13.10%	9.83%	13.49%	12.76%
設備投資対営業キャッシュ・フロー比率	-39.62%	-32.51%	-38.45%	-71.39%	-37.06%	-43.80%
設備投資対純利益比率	-125.38%	-81.29%	-69.02%	-145.09%	-109.42%	-106.04%

株式会社サイゼリヤ

財務分析表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	5 年平均
	27 年 8 月期	28 年 8 月期	29 年 8 月期	30 年 8 月期	1 年 8 月期	
財政状態分析						
長期的支払能力分析						
自己資本比率	75.73%	78.45%	78.06%	79.10%	77.59%	77.79%
総資本負債比率	24.15%	21.41%	21.73%	20.50%	21.83%	21.92%
有利子負債比率	0.76%	0.27%	0.33%	0.51%	0.66%	0.50%
負債資本比率	31.84%	27.25%	27.76%	25.78%	27.93%	28.11%
利息カバー比率	890.3 倍	1,827.8 倍	5,943.5 倍	4,448.5 倍	2,433.8 倍	3108.8 倍
営業キャッシュ・フロー 対総負債比率	51.79%	69.53%	60.29%	47.97%	61.81%	58.28%
有利子負債平均金利	1.24%	2.02%	0.60%	0.38%	0.55%	0.96%
長期運用安定性分析						
固定比率	76.8%	71.8%	66.4%	65.5%	62.6%	68.6%
固定長期適合率	71.8%	67.6%	61.8%	60.3%	57.1%	63.7%
短期的支払能力分析						
流動比率	220.55%	262.24%	299.10%	340.34%	343.73%	293.19%
当座比率	155.32%	196.30%	226.26%	255.22%	265.50%	219.72%
営業キャッシュ・フロー 対流動負債比率	65.98%	89.44%	81.38%	70.21%	90.24%	79.45%
手元流動性比率（月商ベース）	2.42 ヲ月	2.50 ヲ月	3.03 ヲ月	2.92 ヲ月	3.32 ヲ月	2.84 ヲ月
正味運転資本(百万円)	21,820	24,974	32,920	35,301	39,719	30,947
活動性・能率性分析						
売上債権回転率／回転日数	0 回／ 0 日	0 回／ 0 日	0 回／ 0 日	0 回／ 0 日	0 回／ 0 日	0 回／ 0 日
棚卸資産回転率／回転日数	7.2 回／ 50.7 日	9.4 回／ 38.8 日	7.9 回／ 46.2 日	8.0 回／ 45.6 日	8.6 回／ 42.4 日	8.2 回／ 44.7 日
仕入債務回転率／回転日数	9.8 回／ 37.24 日	10.6 回／ 34.43 日	9.6 回／ 38.02 日	9.6 回／ 38.02 日	9.7 回／ 37.63 日	9.9 回／ 37.07 日
キャッシュ・コンバージョン ・サイクル	13.46 日	4.37 日	8.18 日	7.58 日	4.77 日	7.67 日
固定資産回転率／回転日数	2.51 回／ 145 日	2.78 回／ 131 日	2.78 回／ 131 日	2.83 回／ 128 日	2.96 回／ 123 日	2.77 回／ 132 日
有形固定資産回転率／回転日数	3.41 回／ 107 日	3.82 回／ 95 日	3.78 回／ 96 日	3.80 回／ 96 日	4.14 回／ 88 日	3.79 回／ 96 日

株式会社サイゼリヤ

財務分析表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	5 年平均
	27 年 8 月期	28 年 8 月期	29 年 8 月期	30 年 8 月期	1 年 8 月期	
成長性分析						
売上高増加率	——	4.08%	2.31%	3.88%	1.60%	2.97%
営業利益増加率	——	19.90%	24.54%	-22.97%	11.10%	8.14%
経常利益増加率	——	14.12%	30.12%	-25.16%	9.40%	7.12%
最終利益増加率	——	-45.18%	283.79%	-51.59%	-25.26%	40.44%
総資産増加率	——	-3.16%	11.10%	2.11%	3.88%	3.48%
純資産増加率	——	0.33%	10.66%	3.71%	2.14%	4.21%
自己資本増加率	——	0.31%	10.55%	3.47%	1.91%	4.06%
株主資本増加率	——	4.90%	8.36%	4.41%	4.01%	5.42%
利益剰余金増加率	——	8.77%	11.57%	6.56%	6.02%	8.23%

ロイヤルホールディングス株式会社

財務分析表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	5 年平均
	27 年 12 月期	28 年 12 月期	29 年 12 月期	30 年 12 月期	1 年 12 月期	
収益性分析						
R O E	5.95%	5.02%	6.93%	5.59%	3.78%	5.46%
売上高最終利益率	2.15%	1.83%	2.68%	2.08%	1.41%	2.03%
自己資本回転率	2.77	2.74	2.59	2.68	2.69	2.69 回
R O A [営業利益]	5.39%	5.55%	6.13%	5.74%	4.53%	5.47%
売上高営業利益率	3.85%	4.03%	4.51%	4.26%	3.40%	4.01%
総資本（総資産）回転率（回）	1.40 回	1.38 回	1.36 回	1.35 回	1.33 回	1.36 回
財務レバレッジ比率（倍）	1.98 倍	1.99 倍	1.91 倍	1.99 倍	2.02 倍	1.98 倍
R O A [経常利益]	5.52%	5.53%	6.23%	5.79%	4.52%	5.52%
R O A [当期純利益]	3.18%	2.70%	3.83%	2.94%	1.94%	2.92%
R O A [最終利益]	3.00%	2.53%	3.64%	2.80%	1.88%	2.77%
売上総利益率	67.21%	67.81%	68.01%	68.20%	68.50%	67.95%
売上原価率	32.79%	32.19%	31.99%	31.80%	31.50%	32.05%
売上高販管費比率	65.85%	66.32%	66.15%	66.77%	68.05%	66.63%
売上高総原価率	98.64%	98.51%	98.14%	98.58%	99.55%	98.68%
売上高経常利益率	3.95%	4.01%	4.59%	4.31%	3.40%	4.05%
売上高税引前利益率	3.85%	3.42%	4.30%	3.63%	2.85%	3.61%
売上高総費用比率	97.72%	98.04%	97.18%	97.82%	98.54%	97.86%
売上高減価償却費比率	3.52%	3.82%	3.63%	3.79%	4.28%	3.81%
売上高研究開発費比率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
売上高営業キャッシュ・フロー比率	6.43%	7.10%	7.08%	6.33%	7.21%	6.83%
売上高フリー・キャッシュ・フロー比率	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
自己資本フリー・キャッシュ・フロー比率	6.76%	6.87%	9.95%	4.72%	7.69%	7.20%
総資本営業キャッシュ・フロー比率	9.00%	9.79%	9.63%	8.52%	9.61%	9.31%
設備投資対営業キャッシュ・フロー比率	-70.82%	-67.00%	-55.94%	-71.41%	-54.41%	-63.91%
設備投資対純利益比率	-200.21%	-242.61%	-140.44%	-207.19%	-269.70%	-212.03%

ロイヤルホールディングス株式会社

財務分析表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	5 年平均
	27 年 12 月期	28 年 12 月期	29 年 12 月期	30 年 12 月期	1 年 12 月期	
財政状態分析						
長期的支払能力分析						
自己資本比率	50.43%	50.34%	52.49%	50.13%	49.57%	65.42%
総資本負債比率	48.70%	48.72%	46.49%	48.37%	49.26%	33.92%
有利子負債比率	27.67%	27.90%	26.14%	29.17%	30.72%	13.15%
負債資本比率	94.95%	95.03%	86.90%	94.16%	97.09%	57.89%
利息カバー比率	11.7 倍	8.7 倍	9.9 倍	8.7 倍	6.4 倍	11.4 倍
営業キャッシュ・フロー 対総負債比率	18.47%	20.10%	20.70%	17.61%	19.50%	40.55%
有利子負債平均金利	1.87%	2.57%	2.67%	2.57%	2.70%	1.65%
長期運用安定性分析						
固定比率	160.29%	160.88%	149.97%	161.45%	165.71%	110.02%
固定長期適合率	99.76%	98.76%	96.00%	98.80%	98.56%	79.48%
短期的支払能力分析						
流動比率	101.01%	105.65%	118.21%	106.99%	107.20%	208.93%
当座比率	25.73%	29.78%	43.11%	29.82%	25.91%	133.88%
営業キャッシュ・フロー 対流動負債比率	47.40%	54.40%	53.47%	47.78%	57.63%	67.04%
手元流動性比率（月商ベース）	0.42 ヲ月	0.47 ヲ月	0.69 ヲ月	0.48 ヲ月	0.39 ヲ月	2.45 ヲ月
正味運転資本(百万円)	175	956	3,184	1,241	1,231	1357
活動性・能率性分析						
売上債権回転率／回転日数	21 回／ 17.4 日	21 回／ 17.4 日	21 回／ 17.4 日	20 回／ 18.3 日	19 回／ 19.2 日	20 回／ 17.9 日
棚卸資産回転率／回転日数	17.6 回／ 20.7 日	17.5 回／ 20.9 日	17.3 回／ 21.1 日	17.1 回／ 21.3 日	16.7 回／ 21.9 日	17.2 回／ 21.9 日
仕入債務回転率／回転日数	10.8 回／ 33.80 日	10.5 回／ 34.76 日	10.7 回／ 34.11 日	10.9 回／ 33.49 日	11.1 回／ 32.88 日	10.8 回／ 33.80 日
キャッシュ・コンバージョン ・サイクル	4.30 日	3.54 日	4.39 日	6.11 日	8.22 日	5.31 日
固定資産回転率／回転日数	1.73 回／ 210 日	1.70 回／ 214 日	1.73 回／ 210 日	1.66 回／ 219 日	1.62 回／ 225 日	1.69 回／ 216 日
有形固定資産回転率／回転日数	2.73 回／ 133 日	2.65 回／ 137 日	2.76 回／ 132 日	2.51 回／ 145 日	2.43 回／ 150 日	2.62 回／ 139 日

ロイヤルホールディングス株式会社

財務分析表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	5 年平均
	27 年 12 月期	28 年 12 月期	29 年 12 月期	30 年 12 月期	1 年 12 月期	
<u>成長性分析</u>						
売上高増加率	——	2.02%	1.80%	1.38%	1.98%	1.80%
営業利益増加率	——	6.59%	13.98%	-4.08%	-18.58%	-0.52%
経常利益増加率	——	3.66%	16.35%	-4.81%	-19.53%	-1.08%
最終利益増加率	——	-17.45%	53.47%	-63.75%	25.11%	-0.66%
総資産増加率	——	3.47%	3.26%	2.46%	3.03%	3.06%
純資産増加率	——	3.43%	7.75%	-1.63%	1.77%	2.83%
自己資本増加率	——	3.29%	7.68%	-2.16%	1.87%	2.67%
株主資本増加率	——	2.32%	6.18%	0.20%	1.81%	2.63%
利益剰余金増加率	——	16.43%	24.35%	12.68%	5.34%	14.70%

設問④ 企業価値・株価分析表

株式会社サイゼリヤ

企業価値・株価分析表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	5 年平均
	27 年 8 月期	28 年 8 月期	29 年 8 月期	30 年 8 月期	1 年 8 月期	
株式投資指標						
株価 (円)	2,817 (2015/8/31)	2,161 (2016/8/31)	3,115 (2017/8/31)	2,230 (2018/8/31)	2,635 (2019/8/31)	2,592
株価上昇率 ①	——	-23.29%	44.15%	-28.41%	18.16%	2.65%
発行済株式総数 (株)	52,272,342 (2015/8/31)	52,272,342 (2016/8/31)	52,272,342 (2017/8/31)	52,272,342 (2018/8/31)	52,272,342 (2019/8/31)	52,272,342
株式時価総額 (百万円)	147,251	112,961	162,828	116,567	137,738	135,469
企業価値 (市場評価) (百万円)	147,975	113,208	163,163	117,097	138,459	135,980
剰余金の配当 (百万円)	914	906	904	900	892	903
E P S (円)	74.70	108.65	151.48	102.69	101.48	107.80
B P S (自己資本) (円)	1,423	1,441	1,619	1,682	1,729	1,579
D P S (円)	17.99	18.01	18.01	18.00	17.98	18.00
P E R	37.71 倍	19.89 倍	20.56 倍	21.72 倍	25.97 倍	25.17 倍
P B R (自己資本)	1.98 倍	1.50 倍	1.92 倍	1.33 倍	1.52 倍	1.65 倍
P D R	156.57 倍	119.98 倍	172.98 倍	123.89 倍	146.52 倍	143.99 倍
配当利回り ②	0.64%	0.83%	0.58%	0.81%	0.68%	0.71%
配当性向	24.22%	16.46%	12.06%	17.74%	17.91%	17.68%
株式投資収益率 =①+②	——	-22.45%	44.72%	-27.60%	18.84%	3.38%

※株価は全て Yahoo!ファイナンスサイトにて 8 月末日に近いものを 8/31 と表示して使用

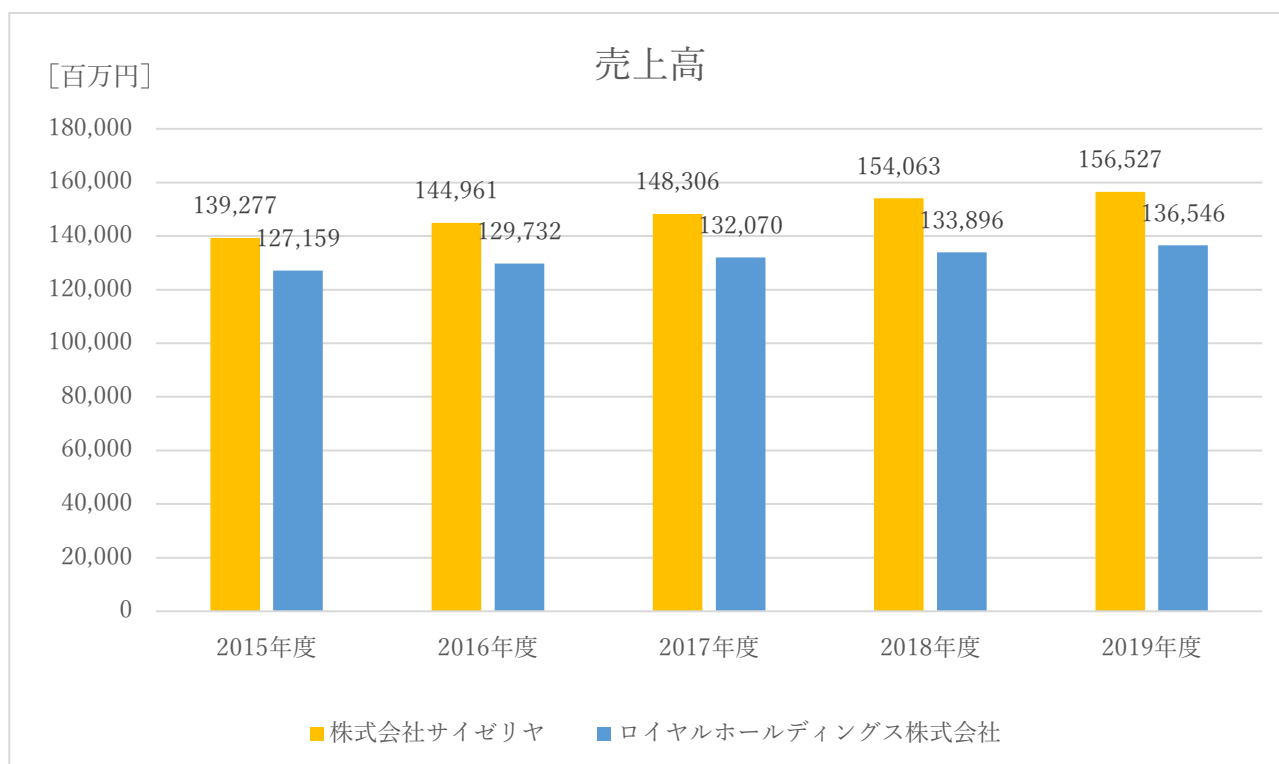
ロイヤルホールディングス株式会社

企業価値・株価分析表	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	5 年平均
	27 年 12 月期	28 年 12 月期	29 年 12 月期	30 年 12 月期	1 年 12 月期	
株式投資指標						
株価 (円)	2,249 (2015/12/31)	1,869 (2016/12/31)	3,105 (2017/12/31)	2,548 (2018/12/31)	2,472 (2019/12/31)	2,527
株価上昇率 ①	——	-16.90%	66.13%	-17.94%	-2.98%	7.08%
発行済株式総数 (株)	40,504,189 (2015/12/31)	40,204,189 (2016/12/31)	40,204,189 (2017/12/31)	39,554,189 (2018/12/31)	39,554,189 (2019/12/31)	40,004,189
株式時価総額 (百万円)	91,094	75,142	124,834	100,784	98,000	97,971
企業価値 (市場評価) (百万円)	116,253	101,384	150,229	129,813	129,500	125,436
剰余金の配当 (百万円)	778	772	1,003	1062	1062	935
E P S (円)	70.79	62.18	93.06	73.71	51.54	70.26
B P S (自己資本) (円)	1,198	1,247	1,343	1,337	1,362	1,297
D P S (円)	20.00	20.00	25.98	27.95	27.95	24.38
P E R	31.77 倍	30.06 倍	33.37 倍	34.57 倍	47.96 倍	35.54 倍
P B R (自己資本)	1.88 倍	1.50 倍	2.31 倍	1.91 倍	1.82 倍	1.88 倍
P D R	112.45 倍	93.45 倍	119.49 倍	91.17 倍	88.45 倍	101.00 倍
配当利回り ②	0.89%	1.07%	0.84%	1.10%	1.13%	1.00%
配当性向	28.52%	32.48%	28.39%	38.05%	55.23%	36.53%
株式投資収益率 =①+②	——	-15.83%	66.97%	-16.84%	-1.85%	8.11%

※株価は全て Yahoo!ファイナンスサイトにて 12 月末日に近いものを 12/31 と表示して使用

設問⑤ 財務諸表分析と経営比較

(1) 収益性分析

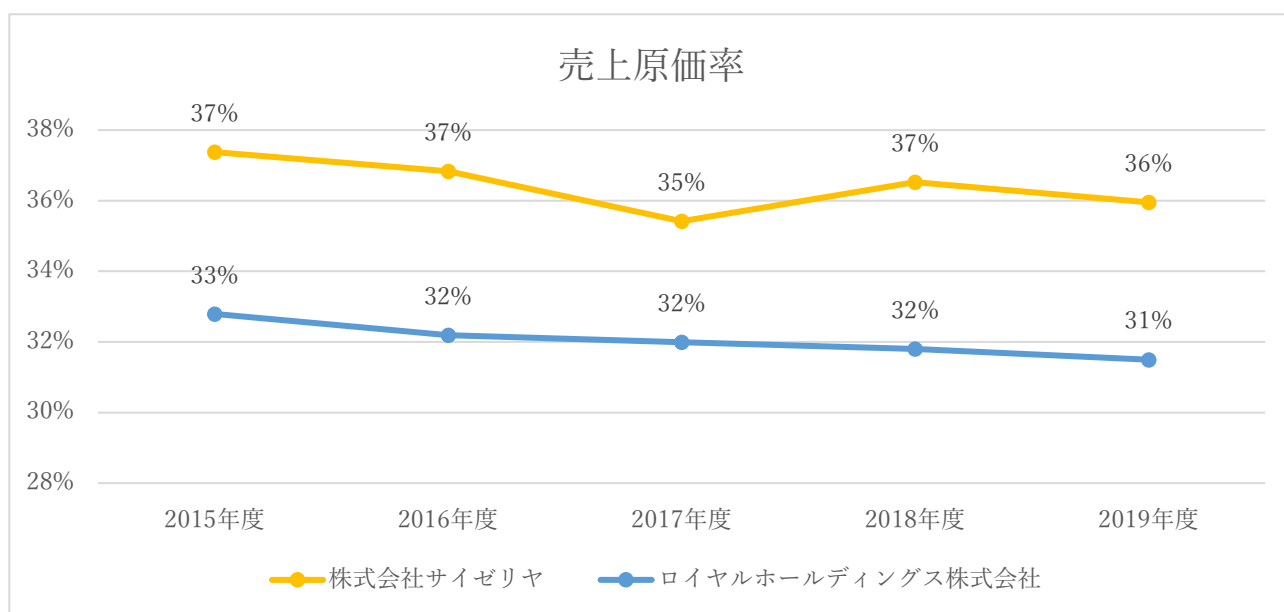


売上高増加率	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
株式会社サイゼリヤ	——	4.1%	2.3%	3.9%	1.6%
ロイヤルホールディングス株式会社	——	2.0%	1.8%	1.4%	2.0%

株式会社サイゼリヤ（以下サイゼリヤ）については、売上高は徐々に少しずつ伸びている。

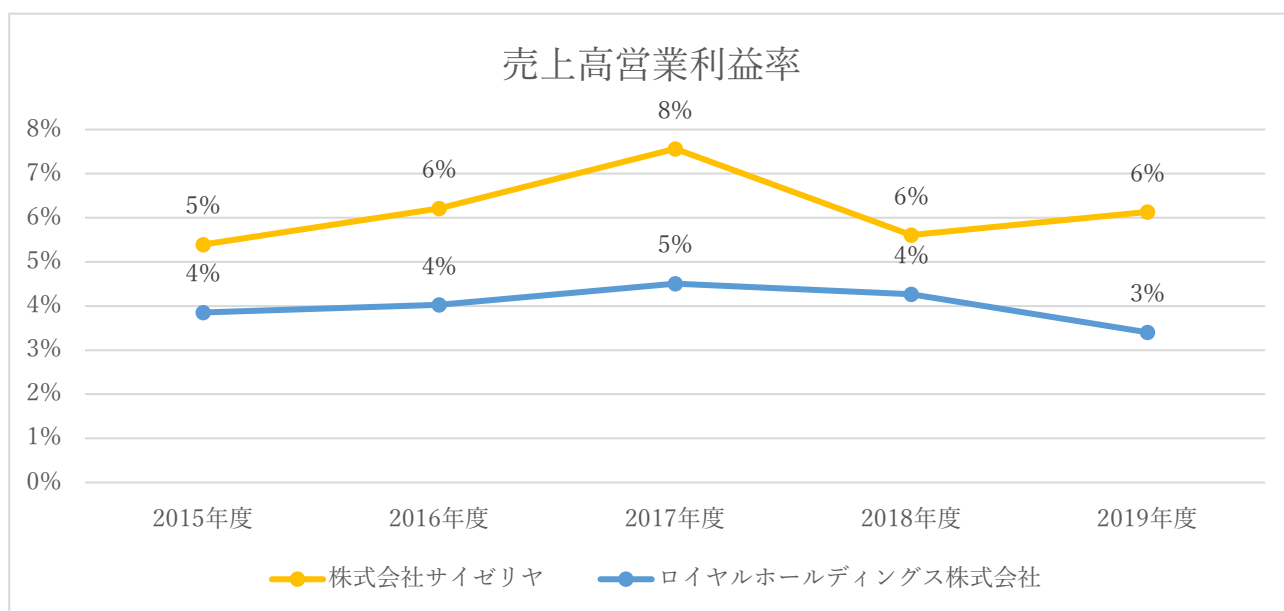
当初より SPA の徹底により低価格でのサービス提供を維持し続け、安定した顧客を確保している。299 円（現在 300 円）の「ミラノ風ドリア」はサイゼリヤ 1 番の人気商品であり、そのおいしさと安さによる人気である。また、サイゼリヤは商品数を絞ることで主力商品を磨き、売れ残る食材を減らすことで作業効率を上げている。「ミラノ風ドリア」は過去 1000 回以上もの改良がなされており、メニューを絞ることで 1 つの商品を磨き上げることに成功した。商品のレベルを上げることで顧客離れを防ぎ、結果として売り上げ増加につながっている。

対して、ロイヤルホールディングス株式会社（以下ロイヤルホスト）については、売上高はほぼ変わらず、しかし 2015 年度に比べると上がっている。ロイヤルホストは、ファミリーレストランの「安い」という概念を打ち壊した、「高くてもおいしいもの」を提供し、品質重視の顧客を確保維持している。思い切って商品の質を高めることで、他のファミリーレストランとの差別化に成功し、その売上はファミリーレストラン業界 3 位を維持している。2012 年にはステーキをグレードアップし、「ロイヤルアングスサーロインステーキ (225 グラム)」は 2,480 円とそこらのレストランよりも高価格での提供となっている。その改革の甲斐あって、落ち込んでいた売り上げは上昇を続けてきた。結果として売り上げは増加しているものの、その後大きな改革が見られず、大きな売り上げ上昇は見られていない。

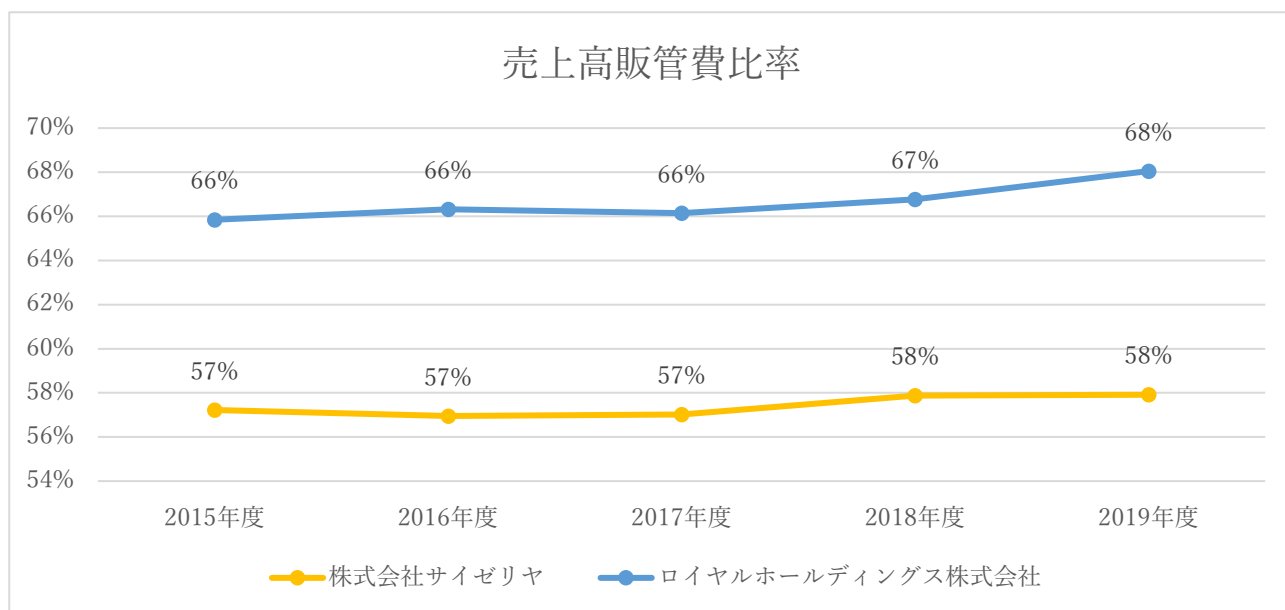


サイゼリヤについては商品が低価格設定であるため、原価率は36%とロイヤルホストより5%高くなっている。また、売上原価率が高いほど利益が出にくいいため、売り上げを伸ばしているサイゼリヤは顧客数の多さがうかがえる。

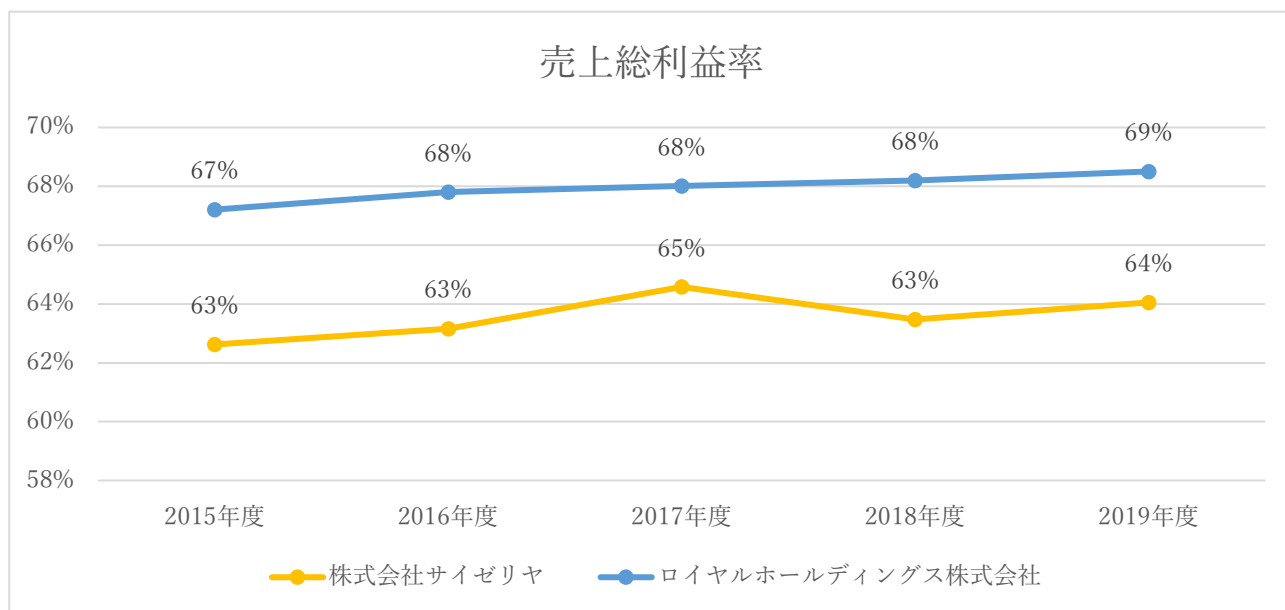
対するロイヤルホストについては売上原価率減少を続け、2019年度31%となっている。品質の良い商品を高価格で設定、それをプレミアム感をプラスすることで見事に高価格設定を定着させ、原価率減少につなげている。



売上高営業利益率はロイヤルホストよりサイゼリヤのほうが高いことから、売上に占める営業利益はサイゼリヤのほうが高いことが分かり、本業からの利益が高いことが読み取れる。



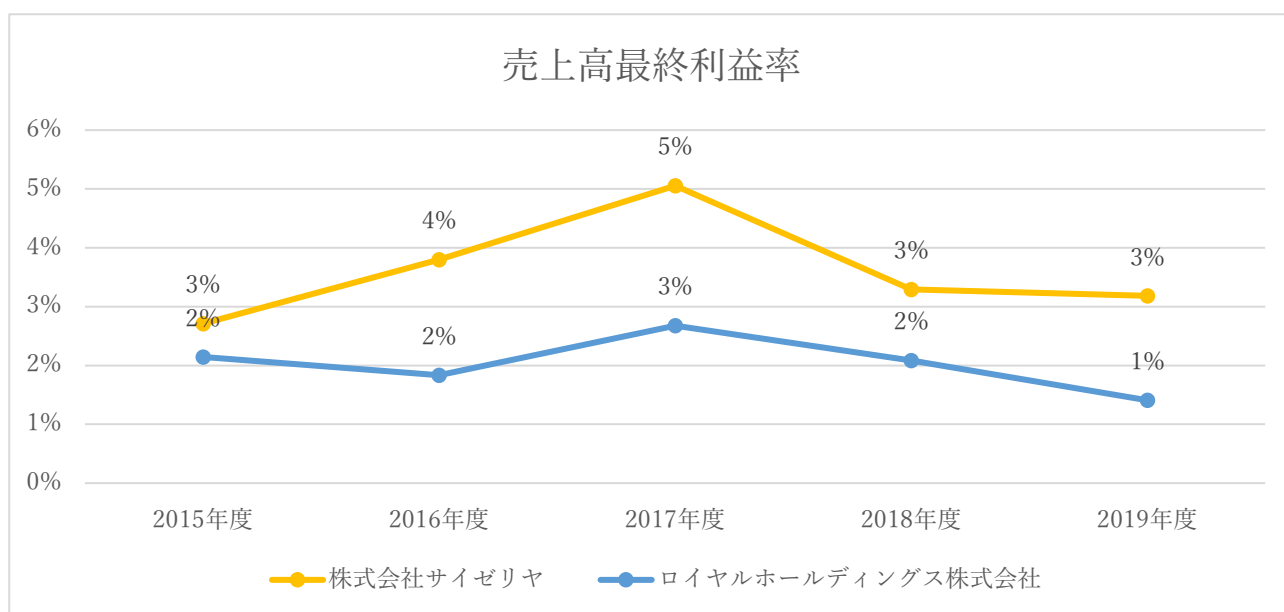
売上高販管費率を見てみると、ロイヤルホストの数値はサイゼリヤと比べても 9%高い状態が続いており、2019 年で 10%の差が出てしまっている。やはり食材を厳選しており食品原価が高いこと、また販売手数料がかかりすぎていることも販管費率上昇の一因となっていると考えられる。ロイヤルホストは売上げの伸びが悪く、販管費率上昇が利益向上につながっているとは言えないので、販管費削減の対策が必要となってくる。



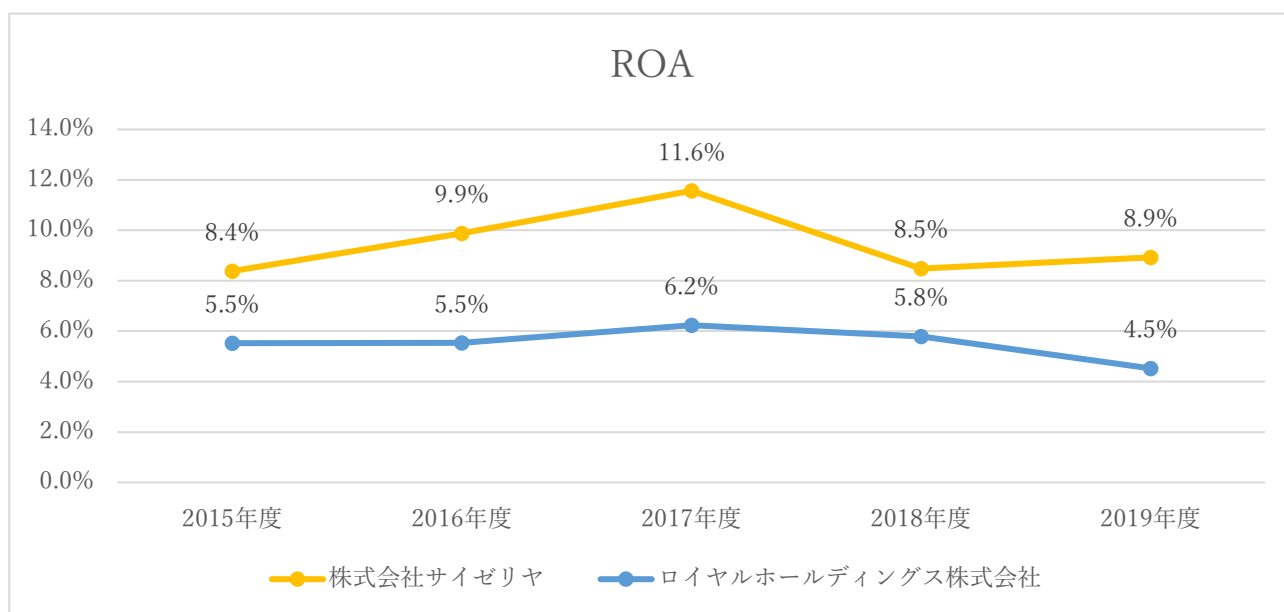
両会社ともに、売上総利益率は安定的に推移している。

サイゼリヤについては、他のファミリーレストランチェーン企業に比べても販売価格が低下であり、原価率が高いことから会社利益率が低くなっている。

一方で、ロイヤルホストは、ファミリーレストラン業界の中では比較的に高価格でサービスを提供しているため、売上総利益率は 2019 年度 69%とかなり高くなっていると考えられる。両企業の販売価格の違いから、売り上げ利益率の違いが出てきたといえる。



最終利益率から見ると両会社とも利益率が低いことが分かる。数値の低いサイゼリヤと比べてもさらにロイヤルホストは2%ほど劣っている。2019年には売上高最終利益率1%となっており、厳しい状況である。最終利益回復を目指すべく、ロイヤルホストは経営戦略を立て直すべきである。



ROAのグラフ推移を見てみると、両企業とも2017年度まで上昇し、2018年度より減少傾向にある。この理由として、2018年度では採用コスト・人件費の上昇、原材料価格の高騰が各社の利益を圧迫し、当期純利益の減少につながったと考えられる。

(2) ROE 分析

〈デュポン・システムによる分析〉

株式会社サイゼリヤ

	売上高 最終利益率	総資本回転率 (回)	財務レバレッジ 比率(倍)	ROA [最終利益]	ROE
2015 年 8 月	2.71%	1.46 回	1.32 倍	3.95%	5.22%
2016 年 8 月	3.80%	1.57 回	1.27 倍	5.95%	7.59%
2017 年 8 月	5.05%	1.44 回	1.28 倍	7.30%	9.35%
2018 年 8 月	3.29%	1.47 回	1.26 倍	4.84%	6.12%
2019 年 8 月	3.18%	1.44 回	1.29 倍	4.57%	5.89%

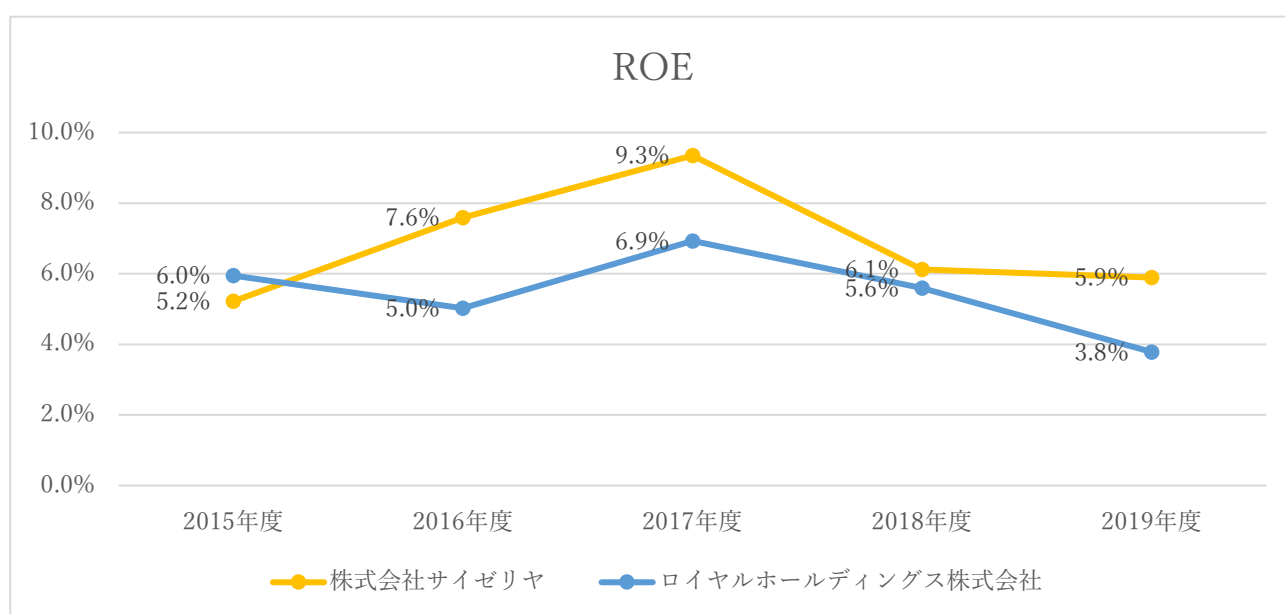
ロイヤルホールディングス株式会社

	売上高 最終利益率	総資本回転率 (回)	財務レバレッジ 比率(倍)	ROA [最終利益]	ROE
2015 年 12 月	2.15%	1.40 回	1.98 倍	3.00%	5.95%
2016 年 12 月	1.83%	1.38 回	1.99 倍	2.53%	5.02%
2017 年 12 月	2.68%	1.36 回	1.91 倍	3.64%	6.93%
2018 年 12 月	2.08%	1.35 回	1.99 倍	2.80%	5.59%
2019 年 12 月	1.41%	1.33 回	2.02 倍	1.88%	3.78%

ROA [最終利益] = 売上高最終利益率 × 総資本回転率

ROE = 売上高最終利益率 × 総資本回転率 × 財務レバレッジ比率

ROE = ROA [最終利益] × 財務レバレッジ比率

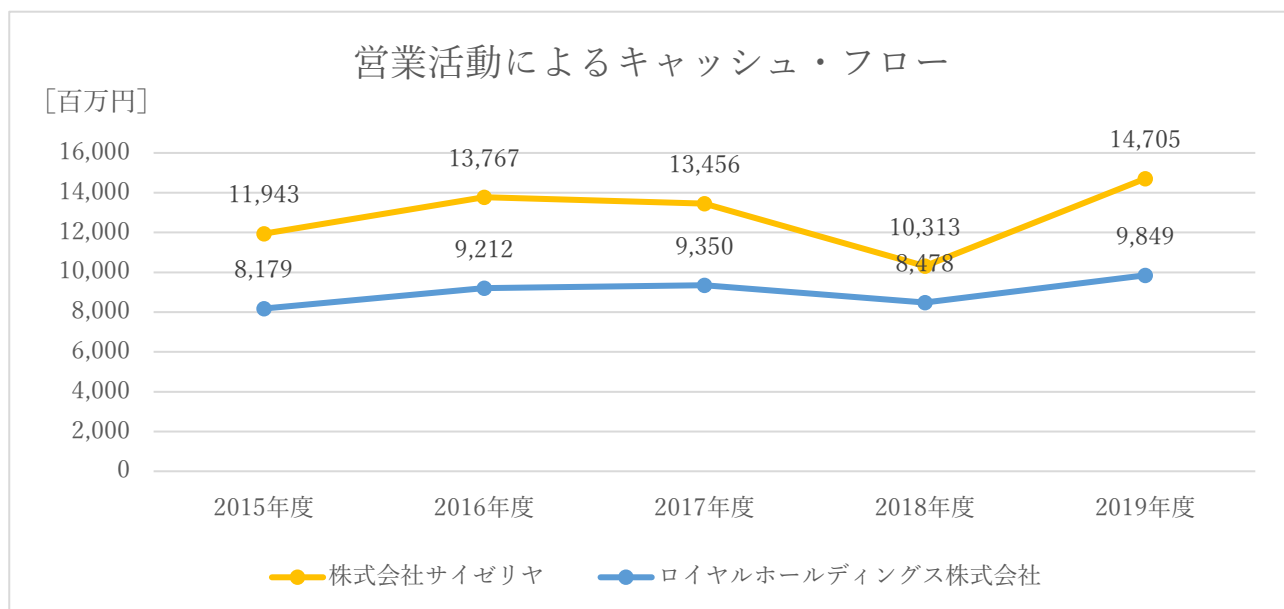


ROE のグラフ推移を見てみると、やはり両企業とも 2017 年度まで上昇、2018 年度より減少傾向にある。

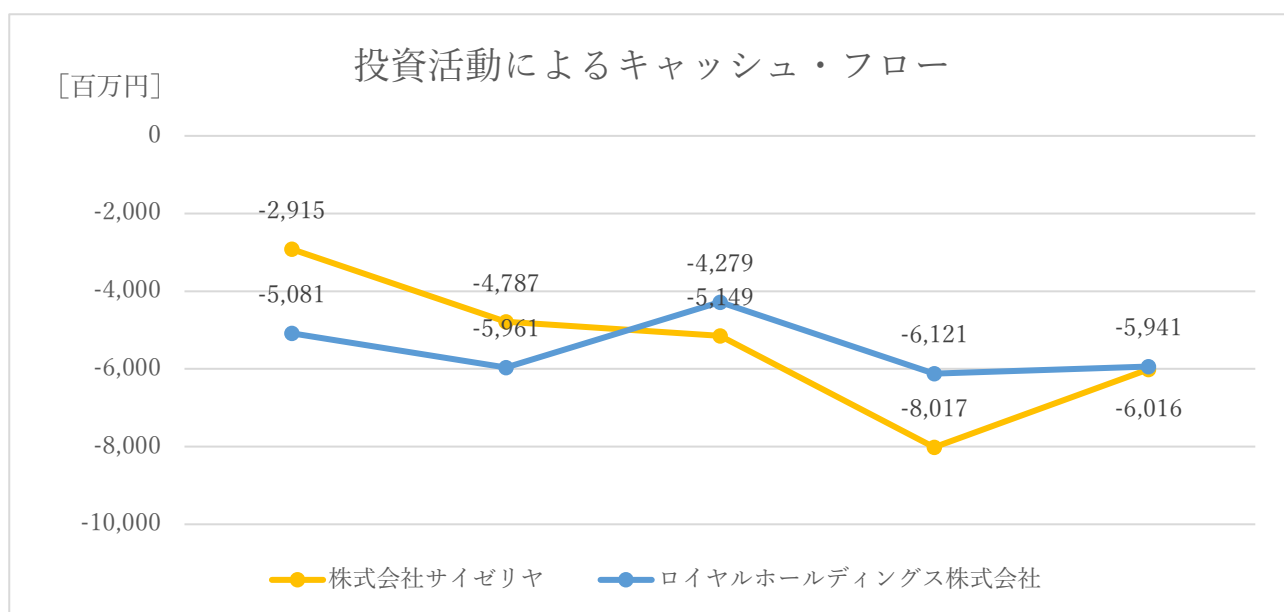
サイゼリヤは低価格でのサービス提供が売りであるため、原材料の高騰によるダメージは大きかったとみられ、2017年度から2018年度にかけて3.2%と大きく減少している。2019年度においては、5.9%とまだまだ回復したとは言えない。サイゼリヤは、新型コロナウイルスの対策として、商品の「1円の値上げ」（全商品が1円値上げではなく、端数を0円として1円、5円、10円硬貨でのお釣りのやり取りを減らすことを目的とするもの）を行う。時間短縮の面では大成功となった。やはりROEの数値を回復させるためには商品価格の値上げが効果的であるが、サイゼリヤとして大幅な値上げは譲れないと思われる。そこで、新規事業拡大を提案する。サイゼリヤは飲食事業しか展開しておらず、飲食事業一辺倒といった傾向であるため、経営状況が変化しやすいといえる。新規事業に参入することで、経営状況が経済一つで大きく傾くという事はなくなると考える。

対してロイヤルホストは、2017年度から2018年度の減少を1.3%に抑え、ファミリーレストラン業界においての比較的高価格でのサービス提供が功を奏した。また、ロイヤルホストはフードサービス事業の他にコンストラクト事業、ホテル事業といった他ジャンルの事業も経営していることから、サイゼリヤほどのダメージはなかったと考えられる。しかし、ロイヤルホストは2018年度に、系列である「てんや」がワンコイン（500円）で提供していた天井を540円に値上げしたことなどから、利益減少につながったと考えられる。これを受け、「てんや」では天井の再値下げが行われるものの、利益率は落ち続け、2019年度ROEは3.8%と非常に落ち込んだままである。対策として、現在の新型コロナを受けて、テイクアウト商品事業の拡大を積極的に目指すことが打開策になるのではないかと考える。

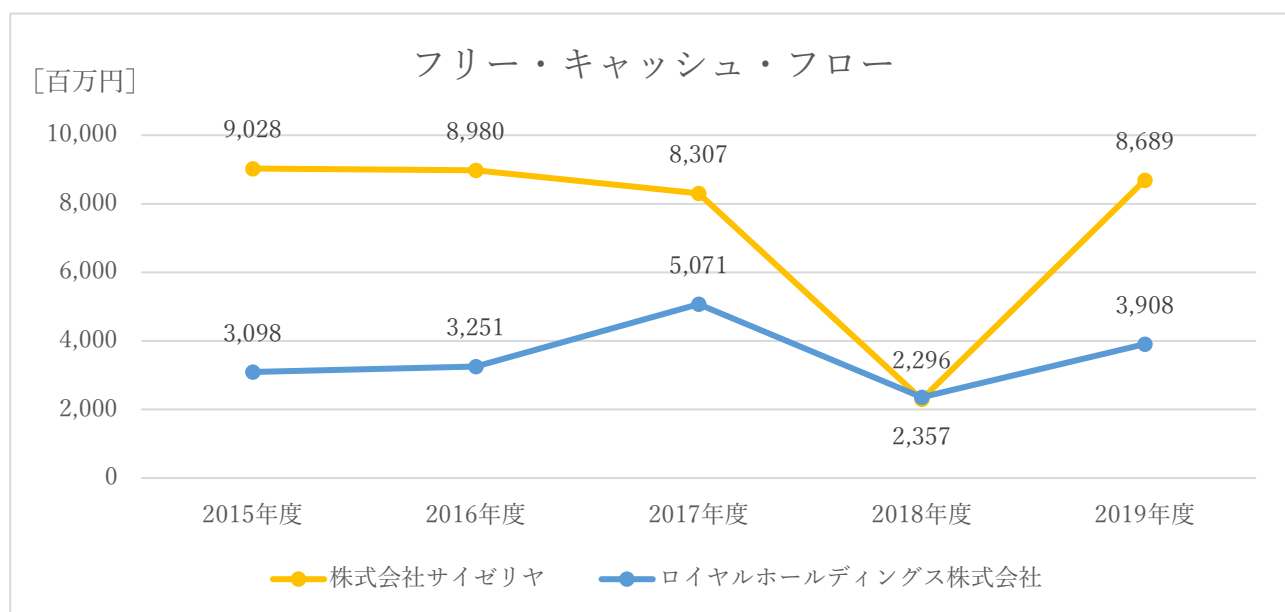
(3) キャッシュ・フロー分析



基本的に両会社とも同じように推移している。営業活動によるキャッシュ・フローはプラスに転じており、本業による利益は十分であると考えられる。

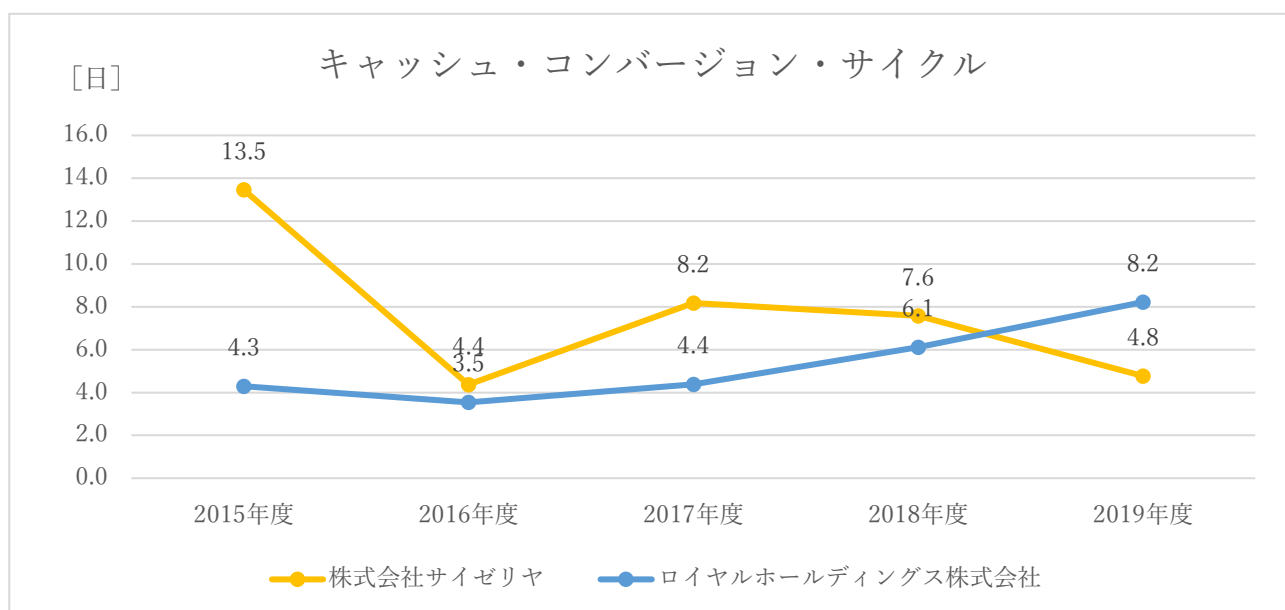
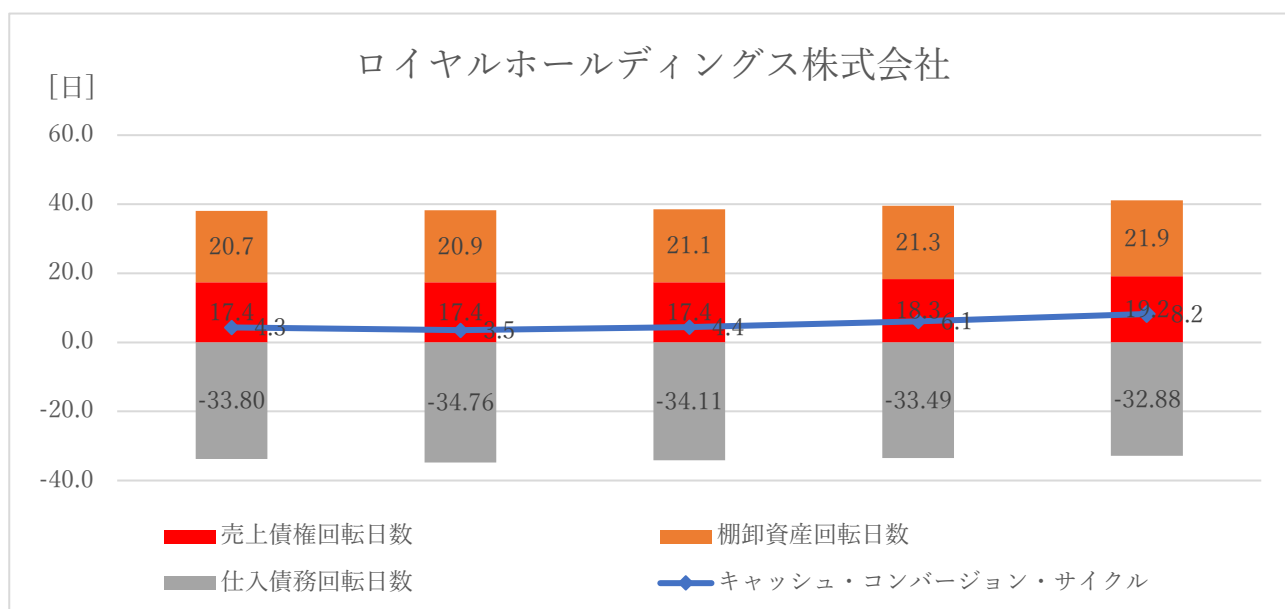
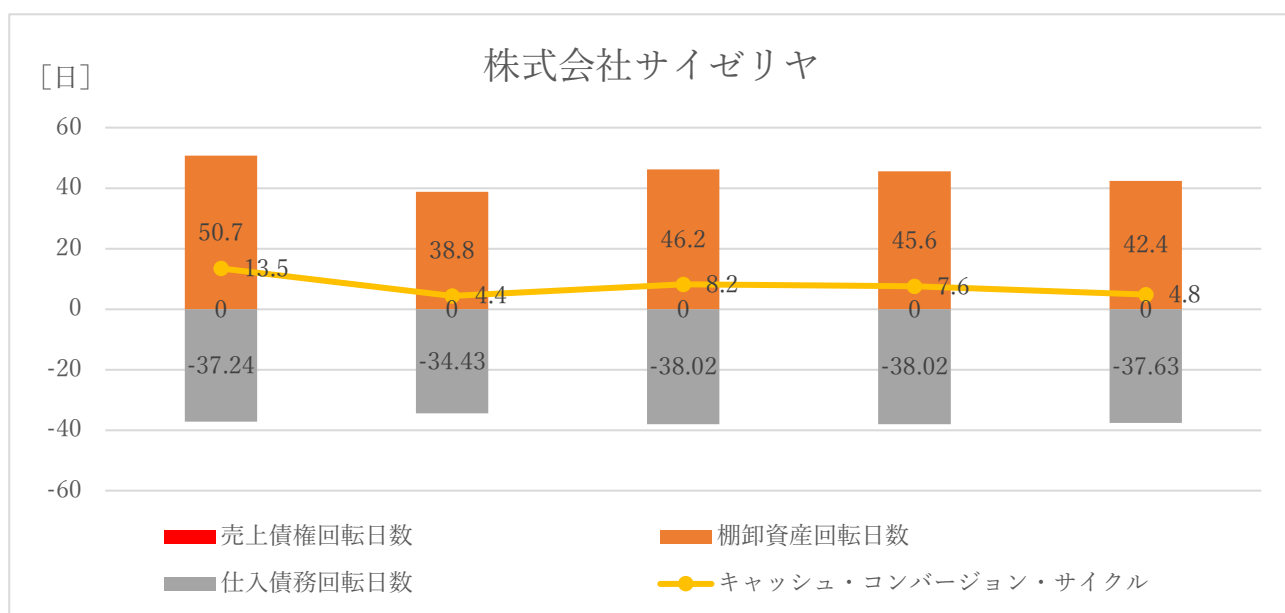


投資活動によるキャッシュ・フローは、両会社ともマイナスとなっている。これは、両社ともに営業活動によるキャッシュ・フローはプラスを維持しているため、設備投資などによる投資を行っていると考えられ、企業活動は順調であると考えられる。



サイゼリヤ、ロイヤルホストともに2018年度に大きく下がり、2019年度にかけてフリー・キャッシュ・フローが増えている。2018年の減少の原因としては、売上債権の減少があげられる。2019年には両社とも売上が回復し、フリー・キャッシュ・フローの計上が可能となったと考えられる。

(4) キャッシュ・コンバージョン・サイクルの分析



仕入代金の支払い（キャッシュ・アウト・フロー）から売上代金の受け取り（キャッシュ・イン・フロー）までの日数の長さを表す指標である、現金転換日数（キャッシュ・コンバージョン・サイクル；CCC）は、次のように計算される。

$$\text{現金転換日数} = \text{売上債権回転日数} + \text{棚卸資産回転日数} - \text{仕入債務回転日数}$$

キャッシュ・コンバージョン・サイクルは、その日数が、短い方が、資金運用の能率性が良いといえる。

回転日数の棒グラフでは、仕入債務回転日数については、－（マイナス）を付けて表示している。

サイゼリヤについて、サイゼリヤは現金決済を徹底しており、売掛金は計上されていないため、売上債務回転日数は0日となっている。売上債権回転日数が0日であるため、棚卸資産回転日数と仕入債務回転日数の差がキャッシュ・コンバージョン・サイクルの日数となっており、平均で7.7日となっている。

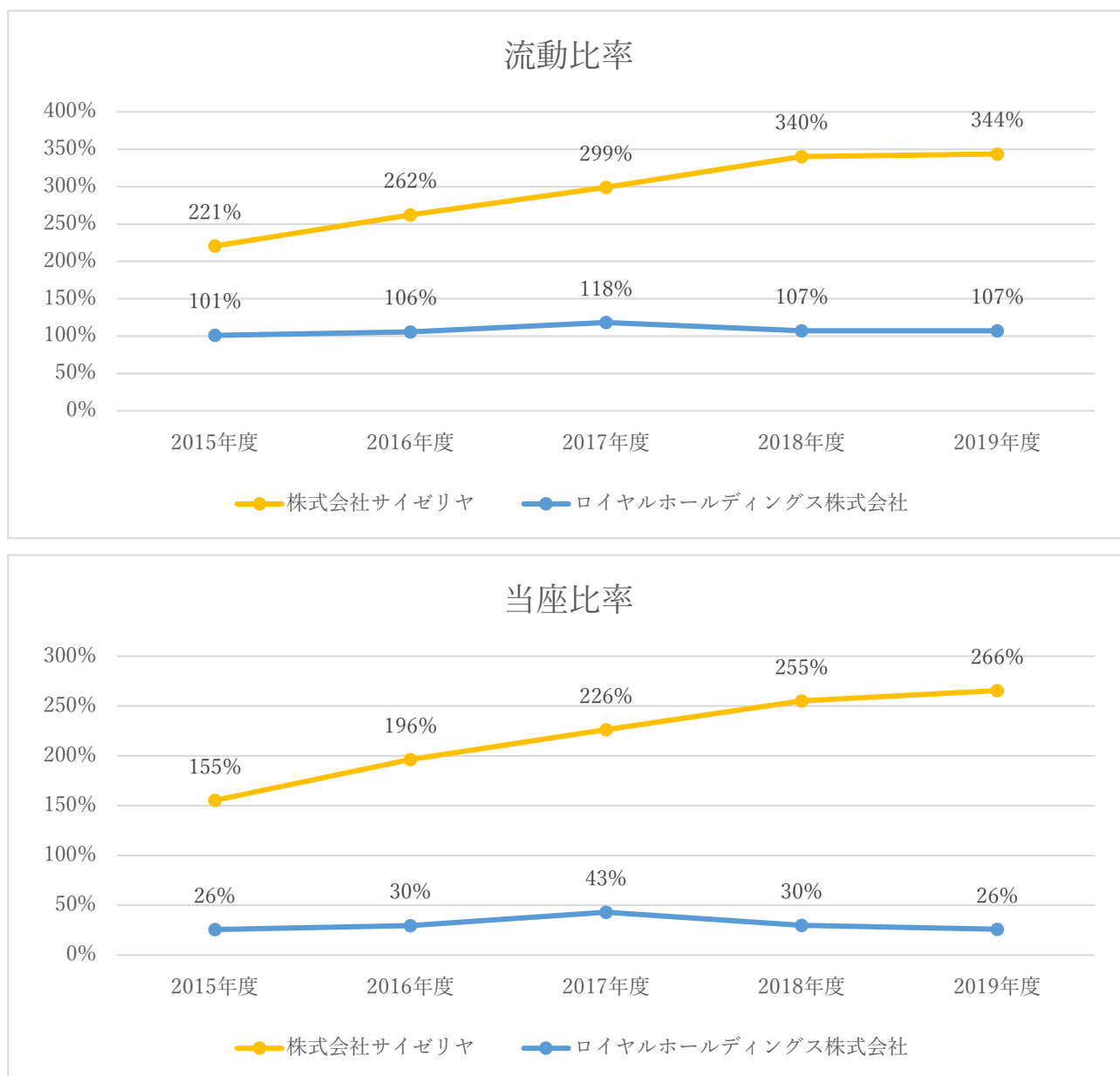
ロイヤルホストについて、2018年度までロイヤルホストのほうが低い数値を維持し続けており、平均で5.3日となっている。

サイゼリヤについては、若干の改善の傾向が見られ、ロイヤルホストについては、若干の悪化の傾向が見られる。

サイゼリヤはSPA(単一業者が商品開発～配送までを行う)を販売形態としてとっているために在庫保有期間が長く、他ファミレスチェーン企業よりも棚卸資産回転日数が比較的長いことから、ロイヤルホストより、キャッシュ・コンバージョン・サイクルも高くなっていたと考えられる。

(5) 財政状態分析

〈短期的支払い能力分析〉



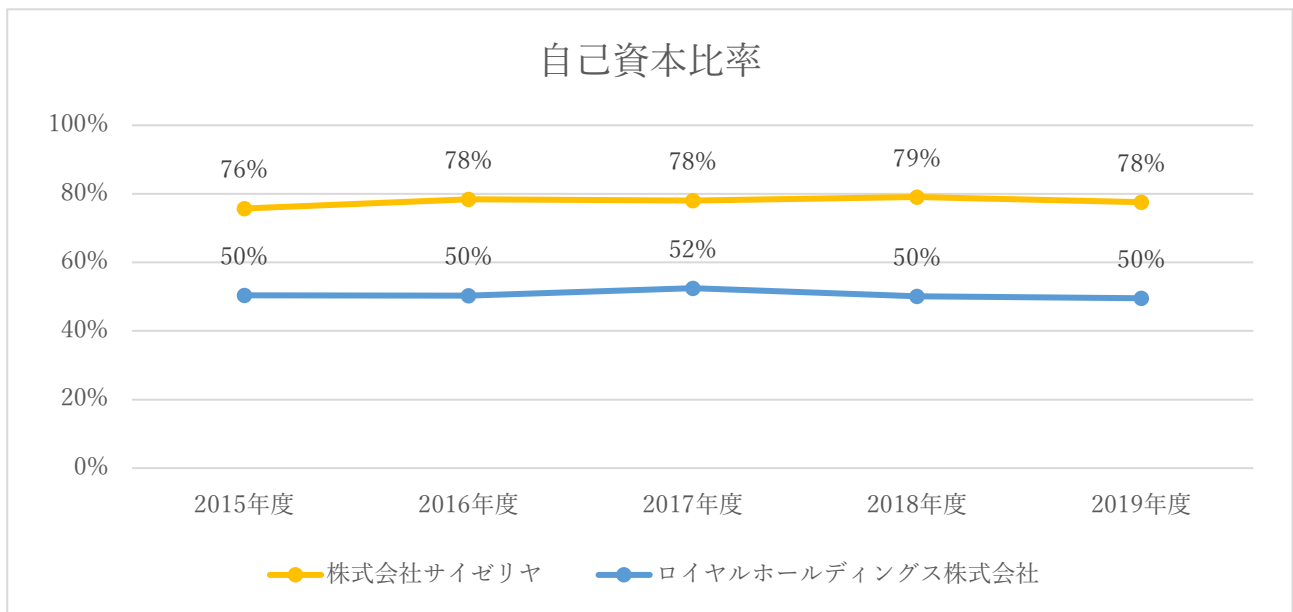
流動比率は 200%以上が理想的であり、100%を超えると安定した短期的支払い能力があるとされている。当座比率も 100%を超えると安定した支払い能力があるとされる。

サイゼリヤについてはまず、生産から販売までを自社ですべて一貫していることから、流動負債の支払いが極端に少ないと考えられる。よって、流動比率、当座比率ともに各理想数値を大きく上回っており、短期的支払い能力は高いといえる。

一方ロイヤルホストについては、流動比率は 100%を上回っており安定しているといえるが、当座比率は平均的にも 30%を下回っており、短期的支払い能力は高いとはいえない。

短期的支払い能力の観点からみると、サイゼリヤのほうが効率的な経営を行うことができおり、安全性が高いと考えられる。

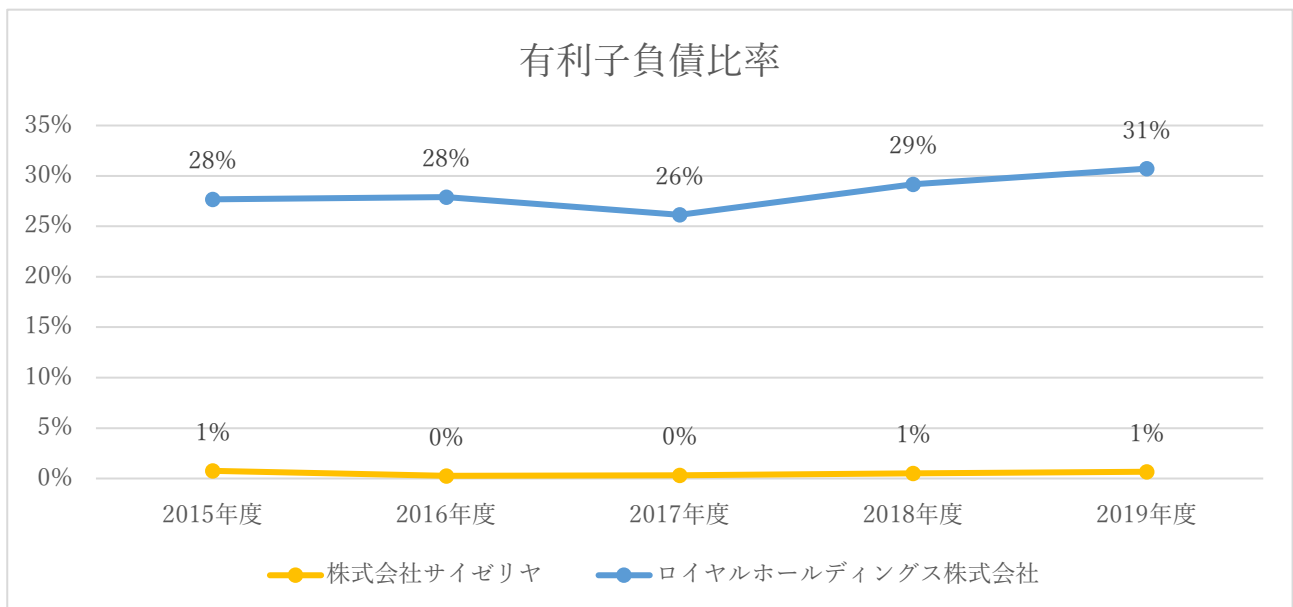
〈長期的支払い能力分析〉



自己資本比率は指標が高いほうが、長期的支払い能力が高いとされる。

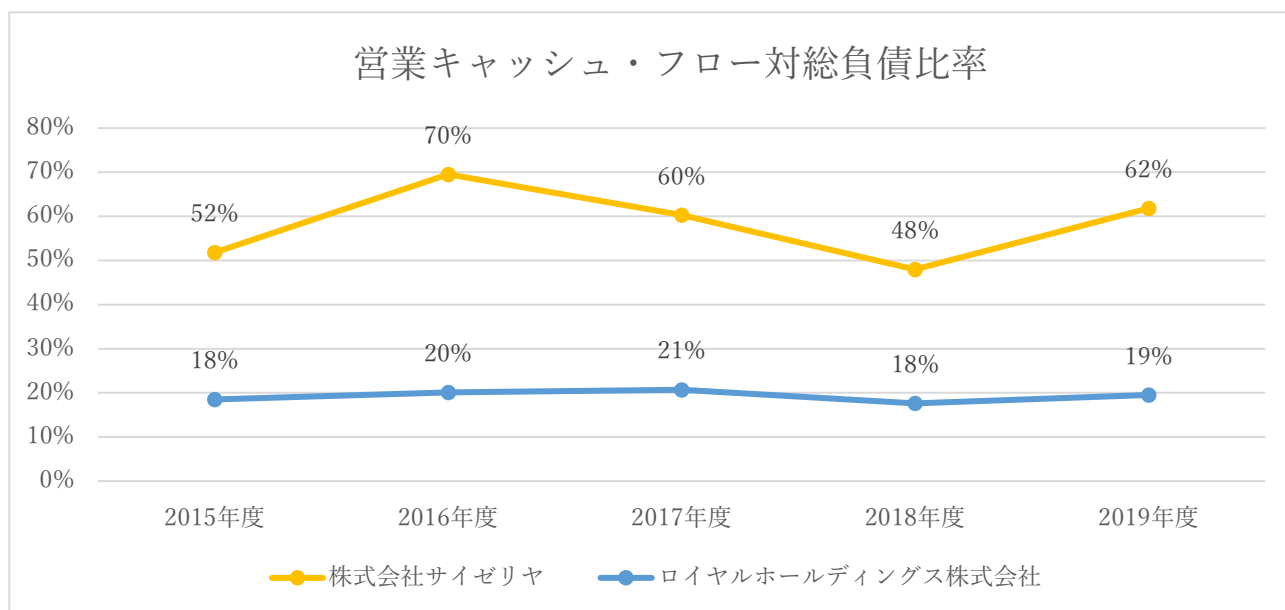
自己資本比率についてはサイゼリヤが順調に売り上げを伸ばし、自己資本を増やしていることから、指標がロイヤルホストより高くなっている。

対してロイヤルホストは自己資本の変化があまりなく、自己資本比率は大きく変動していない。



有利子負債比率については両企業ともに割合は低く、どちらも安全性は高いといえる。

サイゼリヤに至っては、有利子負債はほぼなく、自己資本での経営がうまくいっていると考えられる。

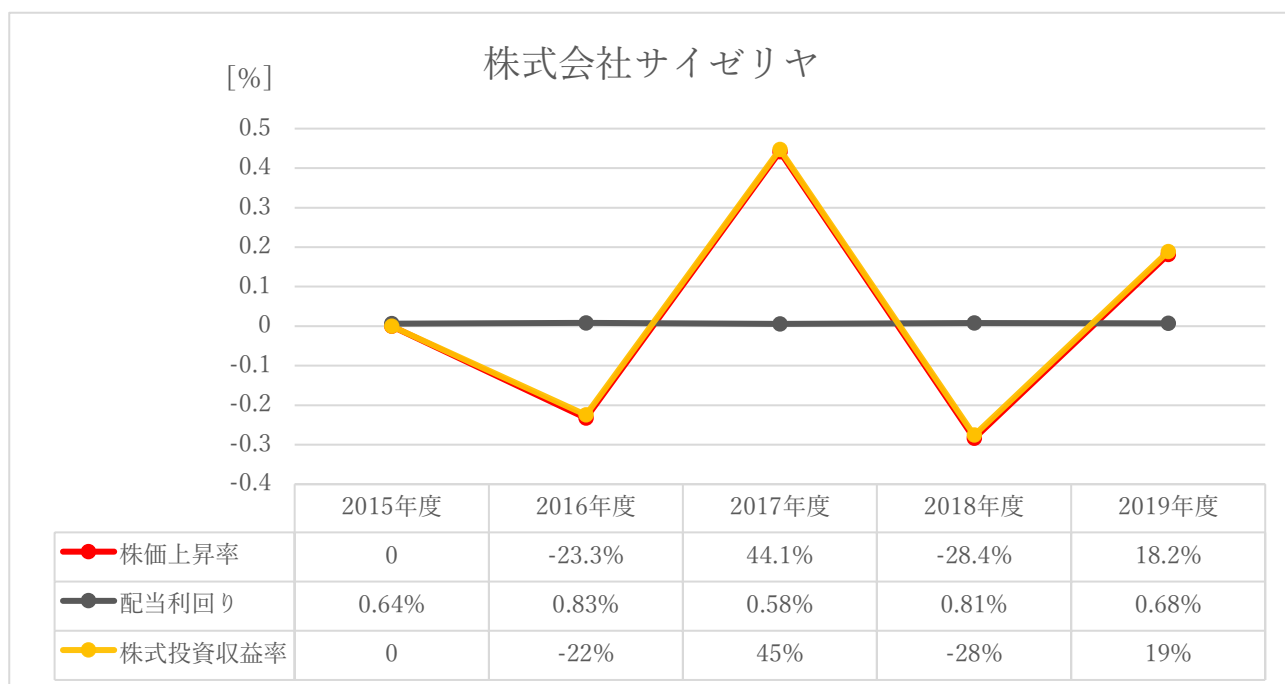


この指標は、営業キャッシュ・フローで総負債をどの程度まかなえるかを表し、指標が高いと長期的な支払い能力が高いとされる。

サイゼリヤについては指標が高く、営業キャッシュ・フローに対する負債は少なく、支払い能力は高いと考えられる。

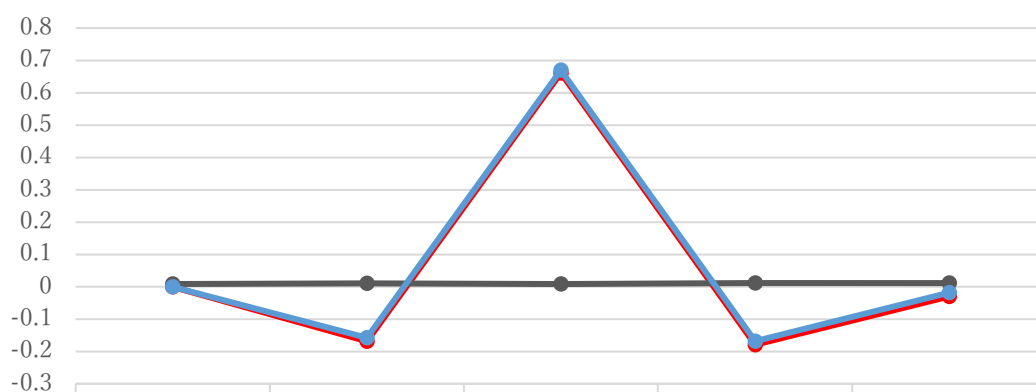
対するロイヤルホストは、数値はサイゼリヤには劣るものの、支払い能力は高いといえる数値である。よって両企業ともに長期的支払い能力は高いといえるだろう。

(6) 株価分析



ロイヤルホールディングス株式会社

[%]



● 株価上昇率

● 配当利回り

● 株式投資収益率

2015年度

2016年度

2017年度

2018年度

2019年度

0

-16.9%

66.1%

-17.9%

-3.0%

0.89%

1.07%

0.84%

1.10%

1.13%

0

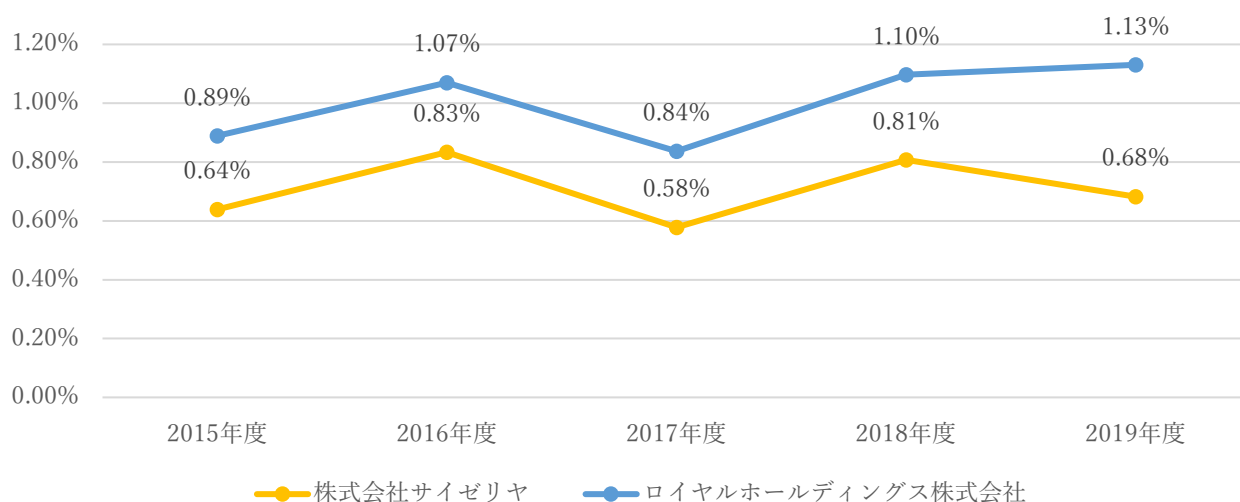
-16%

67%

-17%

-2%

配当利回り

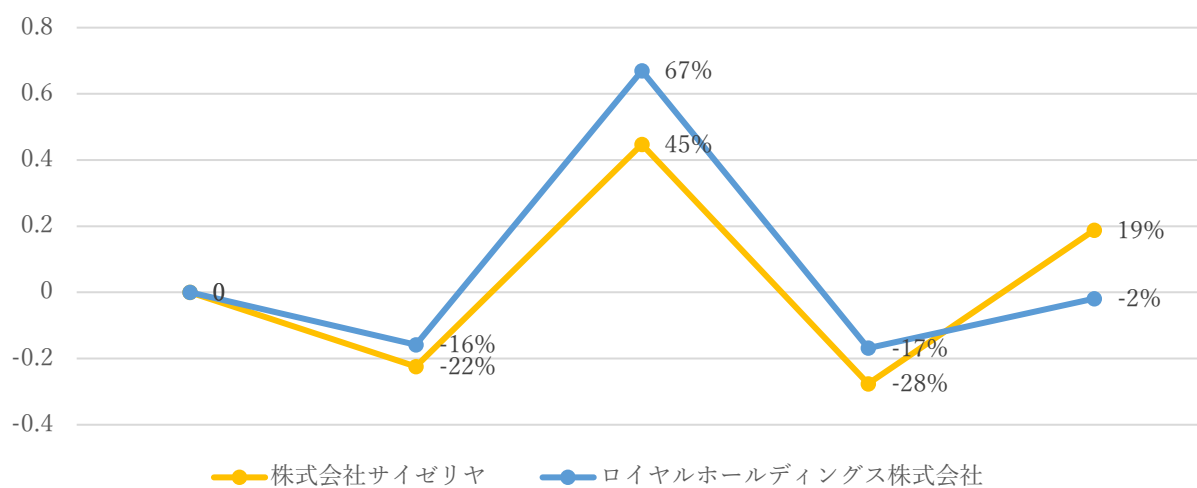


● 株式会社サイゼリヤ

● ロイヤルホールディングス株式会社

株式投資収益率

[%]



● 株式会社サイゼリヤ

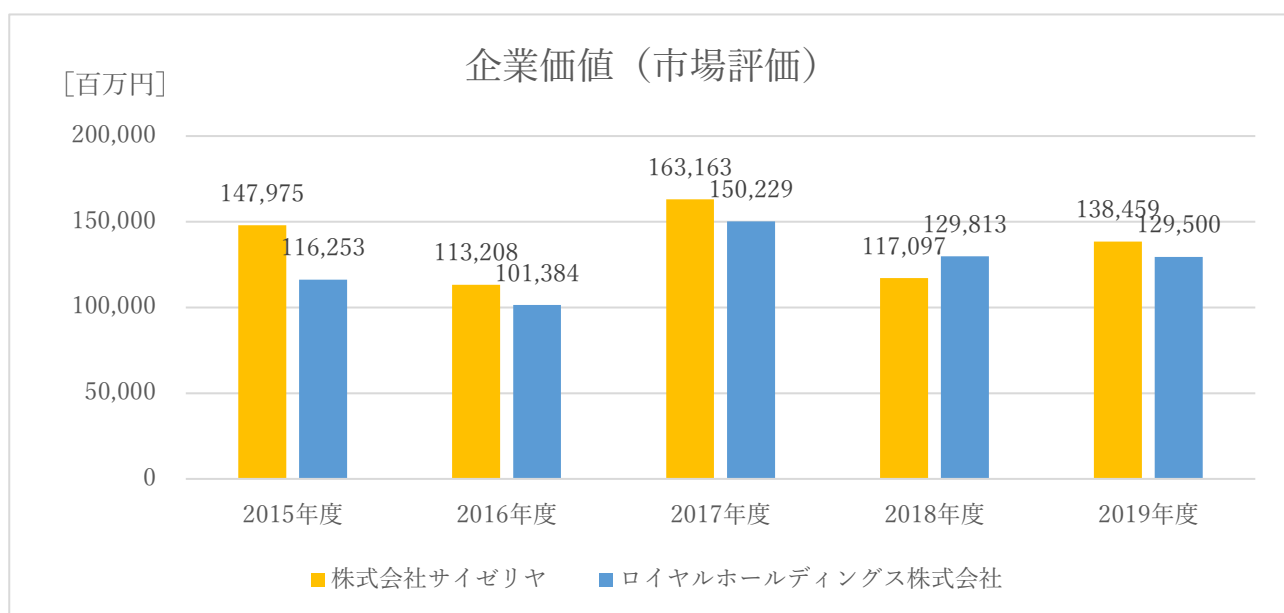
● ロイヤルホールディングス株式会社

株価上昇率・配当利回り・株式投資収益率は全てにおいて、両企業同じように推移している。

株価上昇率においてはロイヤルホストのほうが高い数値を維持してきた。また、株式投資収益率のグラフは、株式上昇率のグラフとほぼ同じ形に推移している。

配当利回りについては、ロイヤルホストのほう指数は高く維持し続けており、株主の配当による投資利益は大きいといえる。

また、株式投資収益率についても、2018年度まではロイヤルホストが上回っており、株式投資の成績・収益率の面でみると優れてきたと考えられる。しかし、2019年度にかけて株価上昇率が見込めなかったことから、株式投資収益率の指数はサイゼリヤに劣ったと考えられる。



企業価値とは、企業の将来の業績を貨幣評価金額として算出した指標である。

$$\text{企業価値（市場評価）} = \text{株式時価総額} + \text{有利子負債合計}$$

$$\text{株式時価総額} = \text{株価} \times \text{発行済株式総数}$$

$$\text{有利子負債合計} = \text{短期借入金} + \text{コマーシャル・ペーパー} + \text{長期借入金} + \text{各社債} + \text{リース債務}$$

これまでの分析ではサイゼリヤが圧倒的に優位であるように感じた。ここで企業価値を見てみると、両会社は同じような指標である。これは、サイゼリヤの有利子負債（負債価値）が極端に低いからである。しかし、ただ有利子負債を増やすだけでは企業価値を高めることはできず、企業価値を高めるには経営を通して企業の株価を上げ、株式時価総額を上げることが重要となってくる。

とはいえ、投資者にとって2社の将来性は同程度と読み取れるだろう。

設問⑥ 企業分析のまとめ：企業の将来性

今回は、ファミリーレストラン業界の「リーズナブル志向」のサイゼリヤと「ブランド志向」のロイヤルホストという対極にある企業を比較してきた。以下に分析結果をまとめる。

まず、収益性分析の面から分析すると、大部分ではサイゼリヤが営業の効率がよく売上を伸ばしており、経営としては順調であるといえる。しかしロイヤルホストについては売上原価率がサイゼリヤよりも低く、利益が大きくなりやすいビジネスモデルだと考えることができる。売上総利益率もサイゼリヤより高くなっている。よってそれぞれの個性を活かした営業方法で運営しているといえる。だが、ファミリーレストラン業界売上トップのすかいらくホールディングスは原価率が 30%を下回っており、かなり低い。理想的な企業経営をしているとはいえ、両社ともトップに躍り出るには対策の必要がありそうである。

ROE 分析の面では、両社とも 2018 年度の採用コスト・人件費の上昇、原材料価格の高騰などによるダメージを引きずり回復しきれていない様子がうかがえる。さらに今年度コロナウイルスの影響による営業業績にも不安が募る。特にロイヤルホールディングスについてはすでに「ロイヤルホスト」「てんや」など約 70 店舗を 2021 年度末までに閉店するとされている。

短期的支払い能力、長期的支払い能力の面ではともにサイゼリヤのほうが流動比率、当座比率、自己資本比率全てにおいて高く、継続して安定していた。財政状態分析においてはサイゼリヤが優れていると判断できる。

サイゼリヤの営業業績が好調であるのは、海外店舗によるところが大きい。全店舗の内 2 割以上が中国店舗で、営業利益の 4 割以上が中国である。利益面で見てみるとサイゼリヤは海外店舗に支えられていることとなる。高い利益率を望めないことから、店舗増加による事業規模拡大といった経営スタイルとなってしまう。ファミリーレストラン業界に大打撃を与え続けるコロナウイルス社会の状況下での店舗を増やせるのが鍵になると考えている。これを機に他業界への進展も一つの手だと考える。

一方、ロイヤルホストは営業業績的にも厳しいと考える。2019 年までは売上げも伸びつつあったが、コロナウイルスの影響で大幅な店舗数の減少を余儀なくされている。なんとか他の事業でも巻き返してほしいが、厳しいだろう。コロナ社会下でのテイクアウト商品の普及拡大に合わせ、事業形態の比率を組み直してみるのもよいと考える。今後ともなんとか生き残ってほしい。

結論として、この分析では総じてサイゼリヤのほうが将来性は高いと判断する。

コロナウイルスの影響はファミリーレストラン業界業績トップのすかいらくホールディングスにも大きく及んでいる。この状況下で打開策をいち早く呈した企業こそが、これからの飲食サービス業界を支える大きな企業となるだろう。

参考文献

矢部孝太郎編著「財務報告論 第 2 版」中央経済社 2020 年 1 月 23 日

株式会社サイゼリヤ：<https://www.saizeriya.co.jp/selection/index.html>

ロイヤルホールディングス株式会社：<https://www.royal-holdings.co.jp/>

Yahoo!ファイナンス：<https://info.finance.yahoo.co.jp/ranking/?kd=56&mk=1>